

科目名	公衆衛生学Ⅰ					開講 キャンパス	神 埼
担当者	横 尾 美智代						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	<p>集団的視点から健康と疾病の関係性を学び、予防と健康増進に展開することが公衆衛生学の学問的特徴である。本科目は衛生学の基本である環境計測と評価の学びを通して自然環境、地球環境への関心を喚起させる。保健統計の重要性について理解させ、読み取り方を解説する。本科目は「公衆衛生学Ⅱ、Ⅲ、実習」の導入科目としても位置づけられる。</p>						
授業の 到達目標	<p>教科書 P.1 - P.82</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念、予防医学の定義について説明できる 2. 感染症を中心とする公衆衛生史の流れを自分の言葉で説明できる 3. 我が国の4大公害病（訴訟）の原因や特徴、国や社会のかかわりに関心を持つ 4. おもな地球環境問題を列挙し、簡単なメカニズムを説明できる 5. 空気の成分、水質基準などについて理解し説明できる 6. 産業廃棄物、一般廃棄物の分別、騒音、振動、放射線などの問題点を列挙できる 7. 保健統計の重要性と個人情報保護の問題について知る 8. 人口動態統計、人口静態統計それぞれの特徴と得られる値について述べるができる 9. 患者調査、国民生活基礎調査から得られる情報を知り、両者の違いを述べるができる 10. 保健分野の基幹統計についてそれぞれの内容と特徴を列挙できる 						
学習方法	講義形式 前時の学習内容の定着を評価するために毎時、小テスト（10点満点）を課す。						
テキスト及 び参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 田中平三、徳留信寛他編、『健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康（改定第3版）』南江堂 2. 厚生労働統計協会編、『国民衛生の動向（2014/2015）』厚生労働統計協会 3. 「環境衛生分野資料集」（大学のサイトより各自でダウンロード） 						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	○				90	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎			10	
受講者の発表							
授業への参加度							
その他							
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第1週	公衆衛生学ガイダンス：鳥の目と蟻の目を持つために						
第2週	ネズミは人々に何をもたらしたのか？：公衆衛生の歴史をひもとく						
第3週	健康な暮らしを営むにはどうしたらいいのだろうか？：予防の概念、健康増進の取り組み						
第4週	水俣病、イタイイタイ病はなぜ起こったのか？：高度経済成長期と公害病						
第5週	見えない環境を測る、知る、守るには？：温熱環境の計測、空気、放射線						
第6週	衛生的環境を保つしくみ、ささえる法律：上下水道、廃棄物						
第7週	快適な生活環境を維持するために：大気、水質、騒音、振動対策						
第8週	地球規模の環境変化が私たちに与える影響とは？：地球温暖化						
第9週	地球規模の環境変化が私たちに与える影響とは？：酸性雨、オゾン層破壊						
第10週	少子化、高齢社会はどうしてわかる？：人口計測とその可視化						
第11週	生まれること、死ぬこと、結婚すること、別れること：人口動態統計と人口静態統計						
第12週	赤ちゃんを数えよう！：出生に関する統計						
第13週	データから「死」の特徴を知る：死亡に関する統計						
第14週	「病気」はどうやって数えているのだろうか？：国民生活基礎調査と患者調査						
第15週	我が国の統計資料にはどのようなものがあるのか？：基幹統計のいろいろ						
第16週	試験						
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業準備：事前学習として、指示された箇所の教科書を通して授業に臨むこと。事後学習としては、受講ノートを整理し小テストに備えること。 2. 板書による講義を行う。ノート（ルーズリーフ可）、蛍光ペン、ポストイットを準備すること。 3. 毎回実施する小テストは定期試験の内容の一部に組み込まれる。 4. 私語厳禁、講義中の入室厳禁。携帯電話、スマホは靴の中へ入れた上で受講すること。 						